

事例報告

特別支援学校中学部生徒が、表情を読み取ることができるようになるための指導

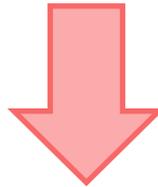
生徒の実態

- 学校生活では、文字のスケジュールを使用している
- 発語があるが、不明瞭であり、相手に伝わりにくいことが多い
- 相手の表情を読み取って行動を調整することが難しい
- 自分で表情をつくることも難しく、場面と気持ちがマッチングしないことが多い（痛いけど笑っている、ヨーガでみんながシーンとなっているけど笑っている など）
- アルバムにこだわりがあり、持って帰ることができないとわかった時に非常に怒ることがあり、後の活動に影響することも多い
- 感情の分化がすすんでおらず、悲しい気持ちやさびしい気持ちをすべて怒ることによって表現しようとする。（昼休みに動画を観ることができなかった時、自分は学年が違うのでバスに乗って校外学習に行くことができなかった時など）
- 人と目を合わせることが少なく、顔を見ないで話をすることが多い

教員の願い

相手の表情を見て感情を読み取ったり，場面に即した感情を表すことができるようになってほしい

相手の表情をとらえることや，場面と感情をマッチングさせることができるようになり，表現の幅が広がり，他者とのコミュニケーションがさらに豊かになるのではないか？



AI-PAC俯瞰図の中のコミュニケーション（叙述-語彙）
「表情」をターゲットに取り組むことに

指導の手続き

目標 イラストや教員の表情を見て、正しく答えることができる

期間 9月2日～12月9日

指導場面 課題学習場面

指導のステップ

- 1 イラストを見て、「わらっている」「おこっている」「なっている」「おどろいている」表情を選択することができる
- 2 イラストを見て、4つの表情を答えることができる
- 3 教員の顔を見て、4つの表情を答えることができる
- 4 4つの表情を自分でつくることができる
- 5 教員の写真を見て、「～先生が～している」と答えることができる

指導の手続き 2

- 6 教員の写真の中から、「～先生が～している」を選ぶことができる
- 7 家族の顔を見て、4つの表情を答えることができる
(般化)

達成基準

それぞれのステップで、4つの表情をすべて正しく答えることが、3日連続でできたら達成とする。

指導時期

ステップ1～4：9月から開始

ステップ5，6：10月下旬から開始

記録の方法

4つの表情について，以下の基準でリストに記録する

- 正答できた 2点
- △ ヒントを出すと正答することができた 1点
- × ヒントを出しても正答することが難しかった 0点

Step 1 イラストで指さし											
	9月2日	9月5日	9月14日	9月15日	9月29日	9月30日	10月5日	10月12日	10月18日	10月19日	12月8日
笑う	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
怒る	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
泣く	0	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2
おどろく	0	0	0	2	2	2	2	1	2	2	2

Step 2 イラストを見て「これ何してる？」									
	9月5日	9月14日	9月15日	9月22日	9月27日	9月29日	9月30日	12月8日	
笑う	0	0	2	2	2	2	2	2	
怒る	2	2	2	2	2	2	2	2	
泣く	2	2	2	2	2	2	2	2	
おどろく	0	2	2	1	1	2	2	2	

指導 Step 1 イラストを見て、「わらっている」「おこっている」「ないている」「おどろいている」の表情を選択することができる

<手だて>

- 「わらっている」「おこっている」「ないている」「おどろいている」の表情を選ぶワークシートを提示する
- 「わらっているのはどれ?」「おこっているのはどれ?」「ないているのはどれ?」「おどろいているのはどれ?」と質問して、指さして答える
- 正しく答えられなかった場合は、ジェスチャーを交えて、大きさに表現する

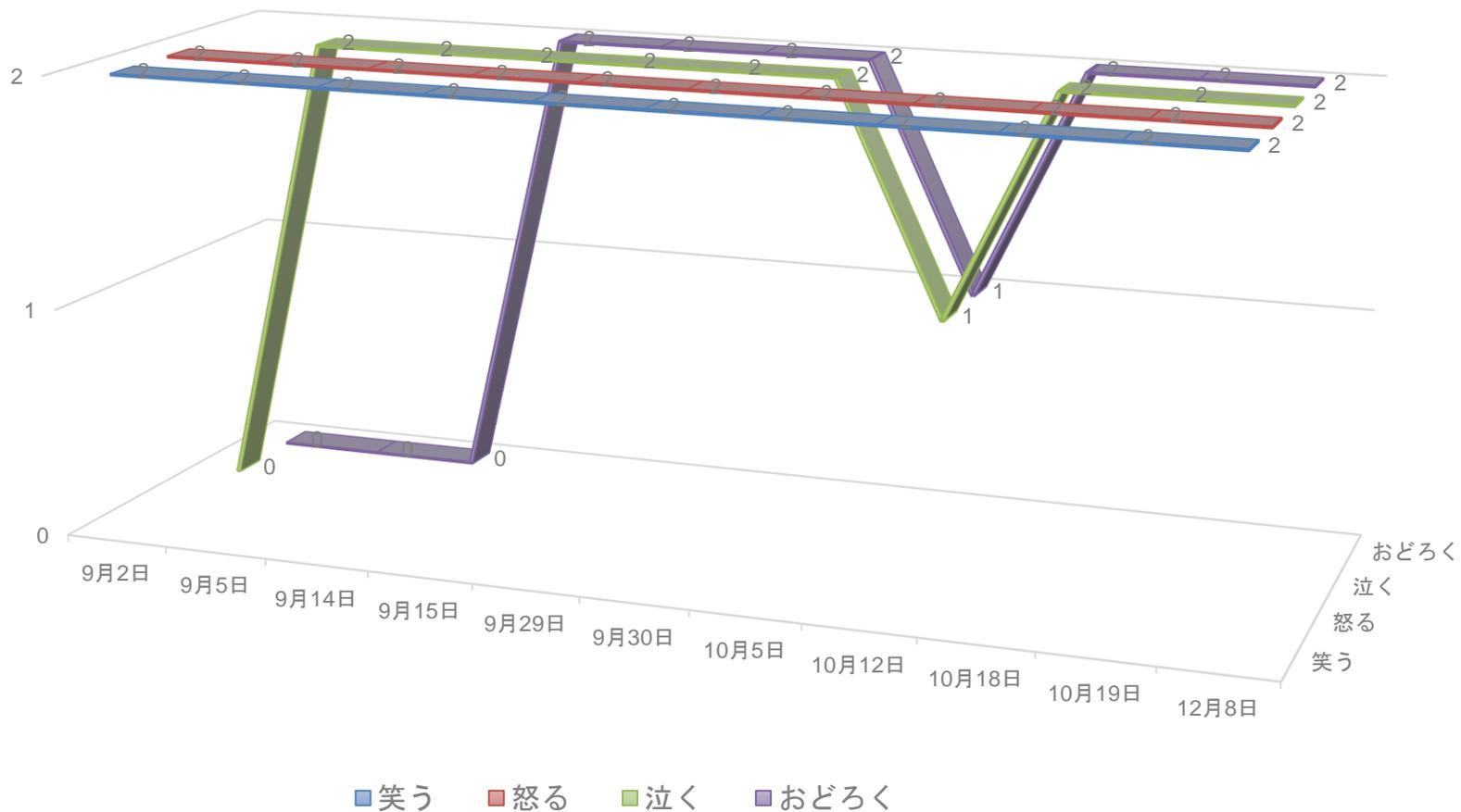


わらっているのは、どれ?



指導 Step I の結果

Step 1 イラストを指さす



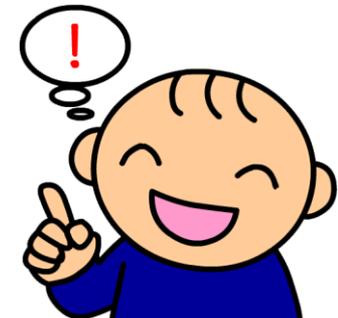
指導 Step2 イラストを見て、4つの表情を答えることができる

<手だて>

- ・「わらっている」「おこっている」「ないている」「おどろいている」表情を選ぶワークシートを提示する
- ・イラストの表情を指さして、「これ、何してる？」と尋ねる
- ・正しく答えられなかった場合は、「にこにこ～」「えーんえーん」など、様子を表す言葉を足す

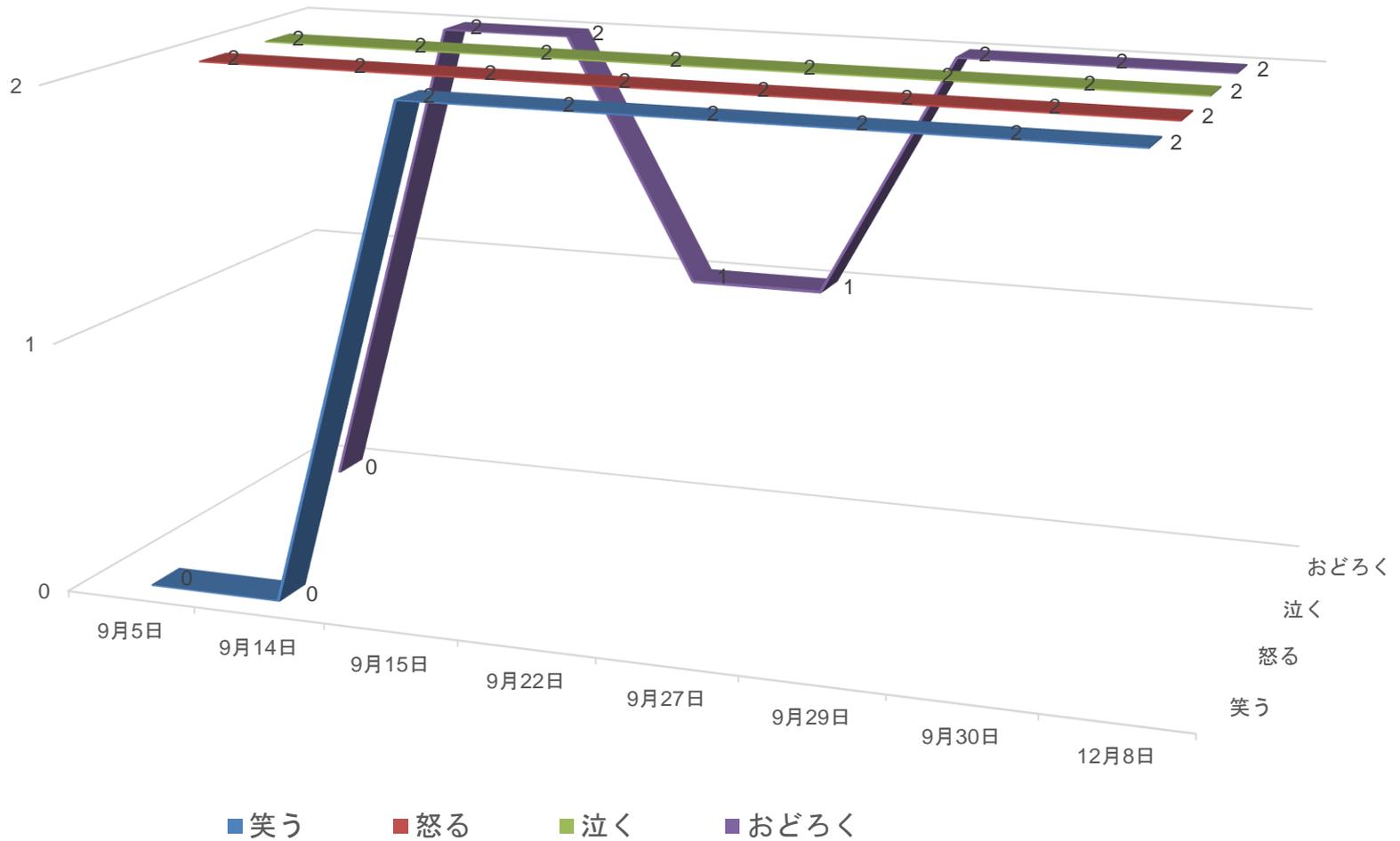


これ 何してる？



指導 Step 2の結果

Step 2 イラストを見て「これ何してる？」に答える



指導 Step 3 教員の顔を見て，4つの表情を答えることができる

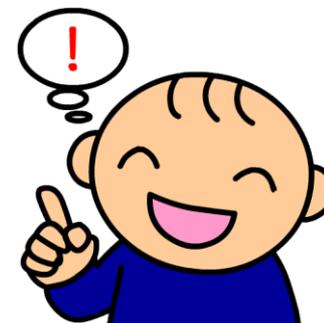
<手だて>

- ・教員の表情を見て，「わらっている」「おこっている」「ないている」「おどろいている」を答えるようにする
- ・「わらっている」は「にこっ」，「おどろいている」は「びっくりした」でも○にする
- ・正しく答えられなかった場合は，もう一度生徒の注意を教員の顔に向けるようにする

これは どんなかお？

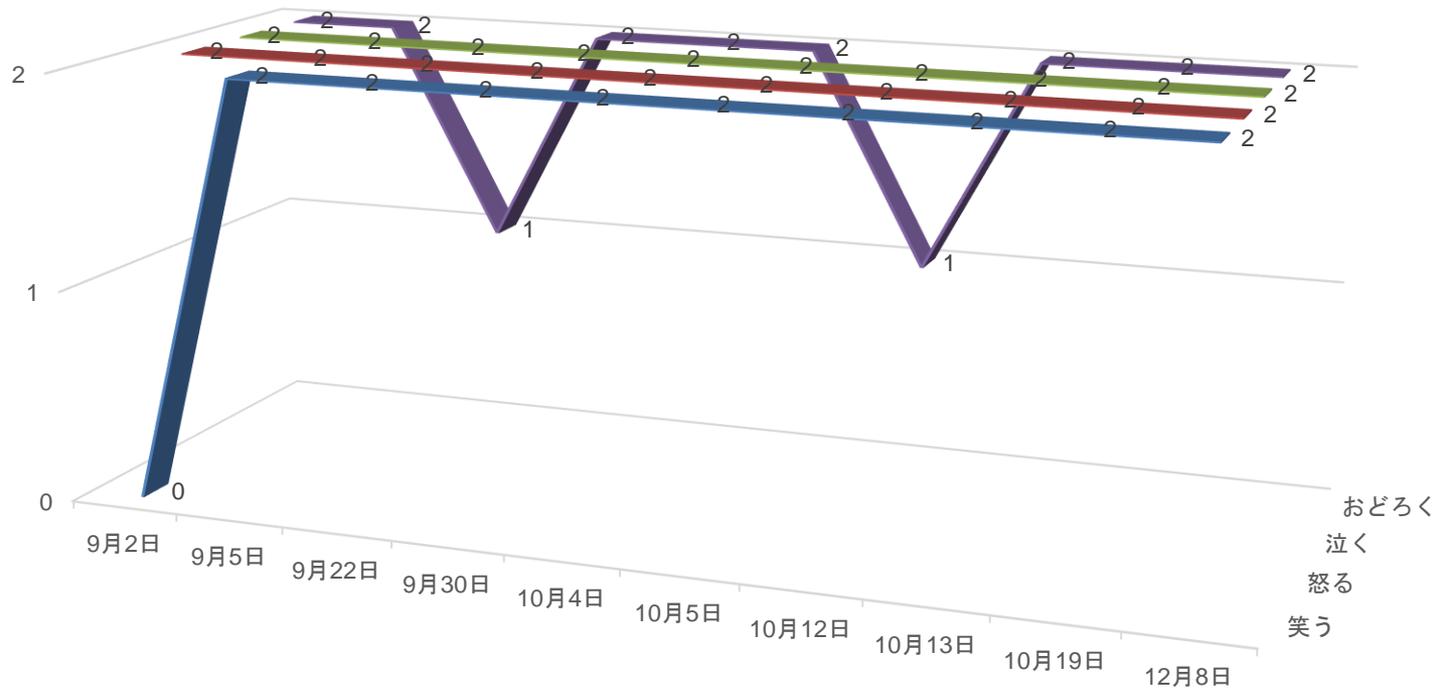


アドバイザーより
「おこる」→腕を組む
「泣く」→泣くまねをする
「おどろく」→両手をひらく
→ジェスチャーをつけてもいいことをアドバイスしていた
だいた



指導 Step 3 の結果

Step 3 教員の顔を見て答える



■ 笑う ■ 怒る ■ 泣く ■ おどろく

指導 Step 4 4つの表情を自分でつくることが できる

<手だて>

- ・表情をつくるように言葉かけをする
- ・「おこる」は、両手を組む，「泣く」は両手を目のところにもっていき泣くまねをする，「おどろいている」は両手を開く，というように，ジェスチャーをつけるよう見本をみせる
- ・正しく答えられなかった場合は，大げさにジェスチャーをつけて見本を示す

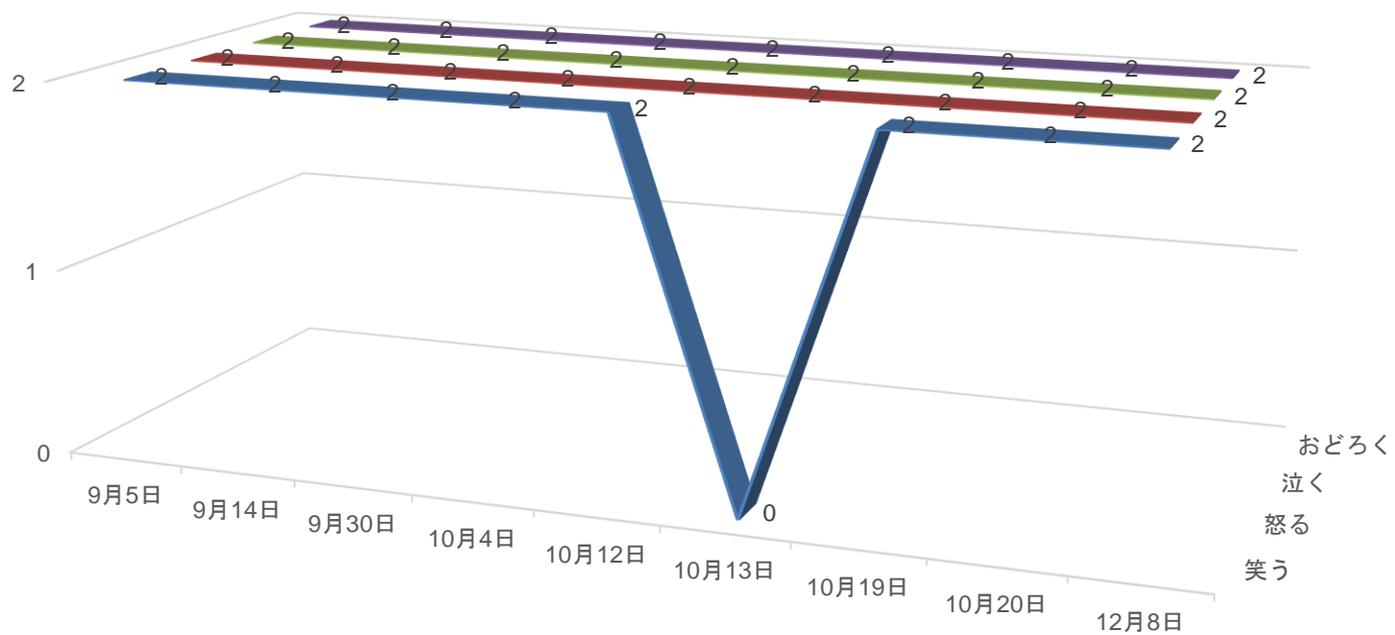


〇〇さん わらってみて



指導 Step 4 の結果

Step 4 表情をつくる



■ 笑う ■ 怒る ■ 泣く ■ おどろく

指導 Step 5 教員の写真を見て、「～先生が～している」と答えることができる

<手だて>

- ・教員の写真を用意する
- ・担任2人，指導に入っている学部長計3人の「わらっている」「おこっている」「なっている」「おどろいている」表情の写真を用いる
- ・「～先生が～している」と主語をつけて言うことができたなら○（2点）とする
- ・正しく答えられなかった場合は，写真に注目するよう再度促す

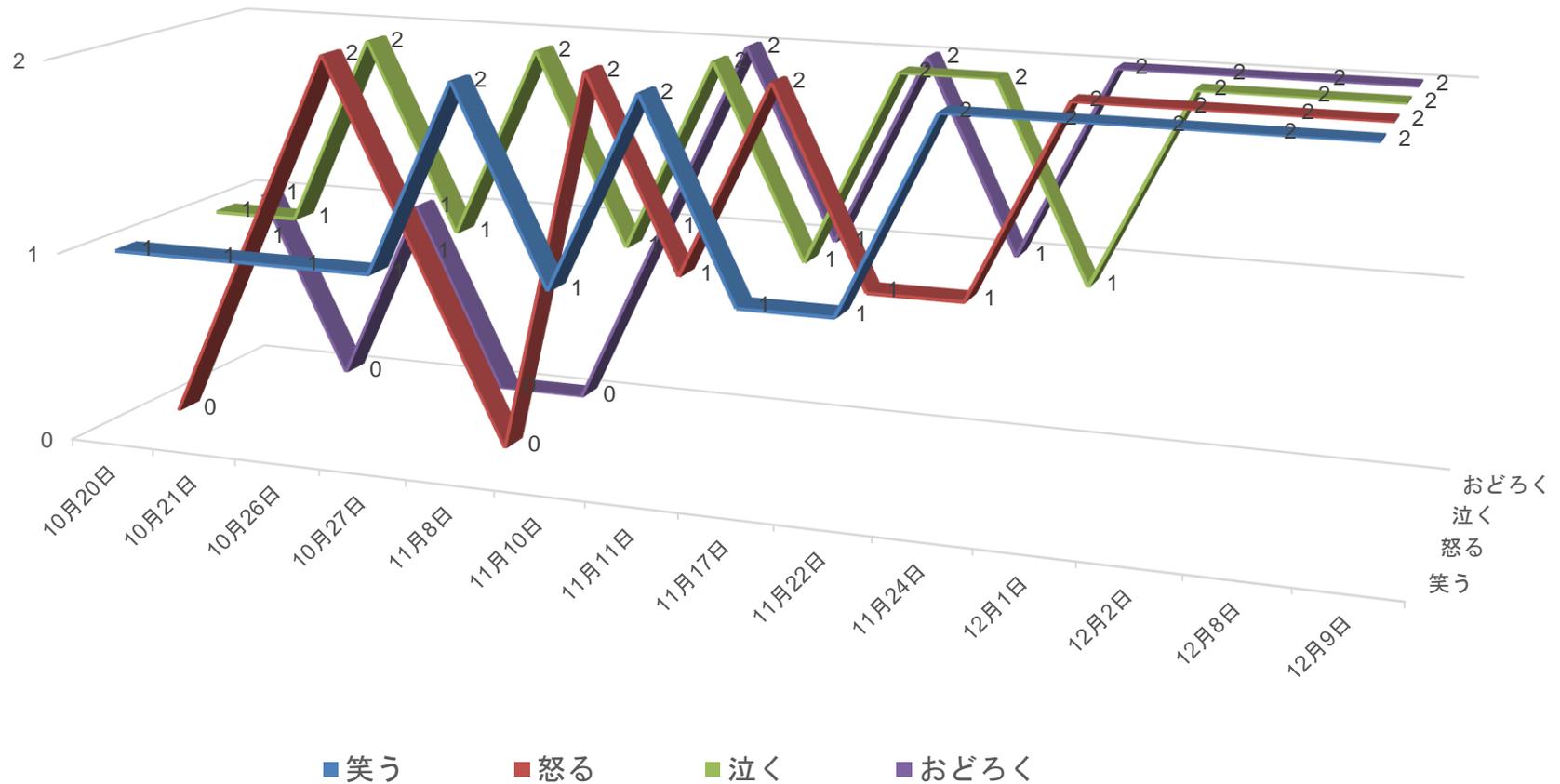


これは なにをしている？



指導 Step 5 の結果

Step 5 教員の写真を見て「～先生が～している」と答える



指導 Step 6 教員の写真の中から、「～先生が～している」を選ぶことができる

<手だて>

- ・教員の写真を用意する
- ・担任2人，指導に入っている学部長計3人の「わらっている」「おこっている」「ないている」「おどろいている」表情の写真をならべて、「～先生が～しているのをとって」と指示を出す
- ・正しく答えられなかった場合は、「～だよ。もう1回よく見て」と再度注意して見るように促す

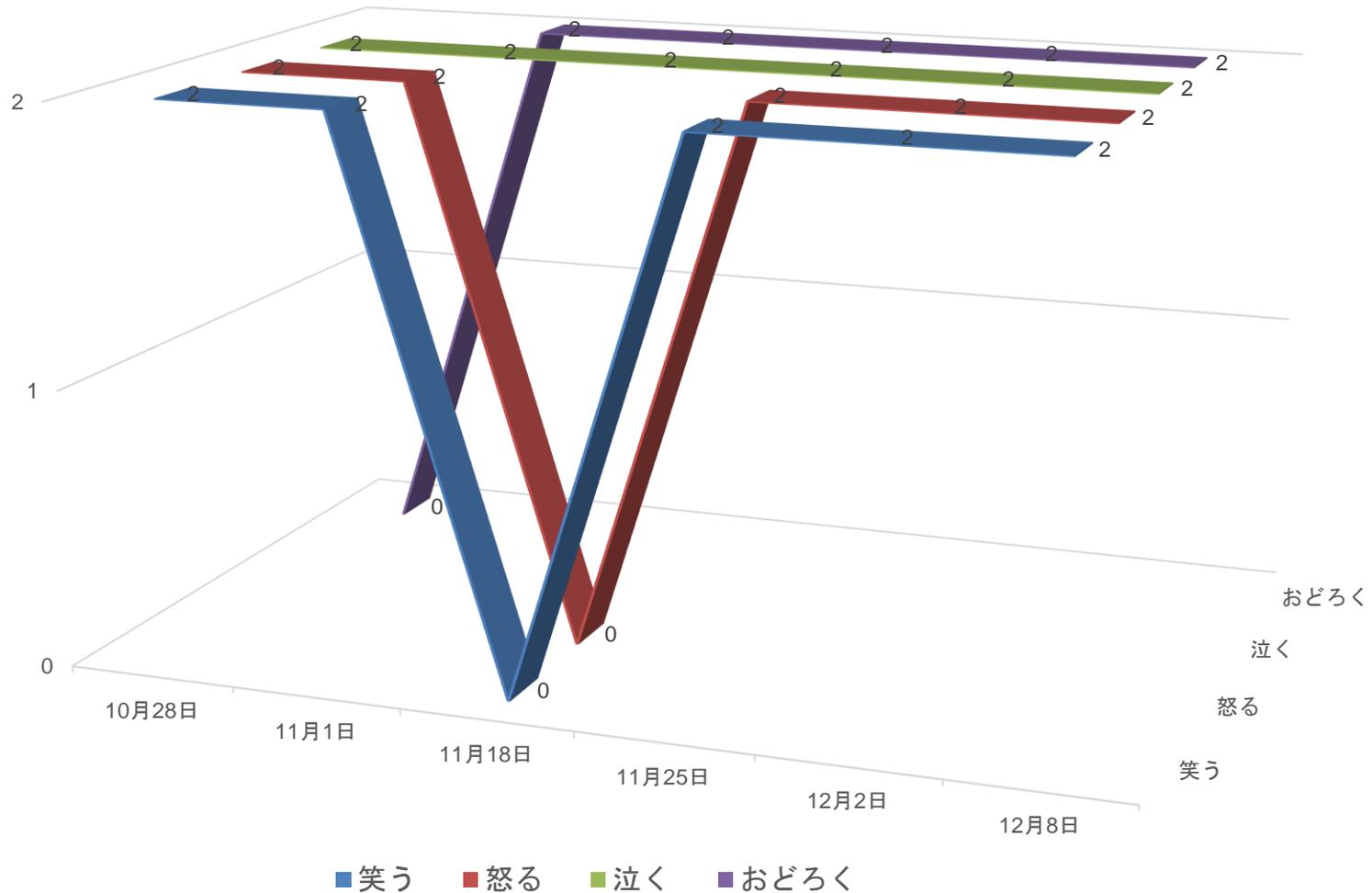


～先生がわらっているのをとって



指導 Step 6 の結果

Step 6 教員の写真を選択する（「～先生が～してるのって」）



般化

目 標 家族の顔を見て，4つの表情を答えることができる

期 間 12月26日～1月9日

場 面 家庭

指導方法 家族の顔を見て，表情を正しく答えることが9割以上できたら達成とする

表情の学習 般化について

今年度はAI-PACの「表情」について、大学の先生からアドバイスを受けながら学習をすすめてきました。学校では、イラストや教員の写真を見て、「わらっている・おこっている・泣いている・おどろいている」の4つの表情をよみとったり、自分で表情をつくりたりする学習を重ね、高確率で答えることができるようになっていきます。

冬休みには、般化として家庭の方で、お母さんやお父さんの表情を見て、答えることができるようになったらいいと思います。答えられたらシールを貼るようにしてください。お忙しい時期ですが、どうぞよろしくお願いたします。毎日でなくて構いません。できる時にお願いたします。

☆「おどろいている」は、「あ、びっくりした」で大丈夫です。

イラストのように手をつけるとわかりやすいようです。

	わらっている 	泣いている 	おこっている 	おどろいている 
12月24日(土)				
12月25日(日)				
12月26日(月)				
12月27日(火)				
12月28日(水)				
12月29日(木)				
12月30日(金)				
12月31日(土)				
1月 1日(日)				
1月 2日(月)				
1月 3日(火)				
1月 4日(水)				
1月 5日(木)				
1月 6日(金)				
1月 7日(土)				
1月 8日(日)				
1月 9日(月)				

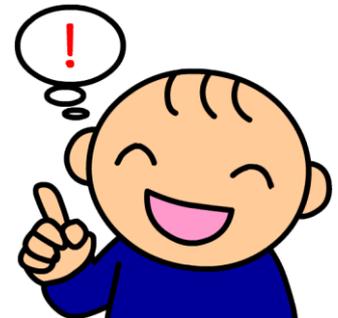
般化の手だて

- 実際にお父さんやお母さんが、「わらう」「おこる」「なく」「おどろく」の表情をつくり，答えるように促す
- ジェスチャーをつけて，尋ねる
- 答えることができたならシールを貼るようにする

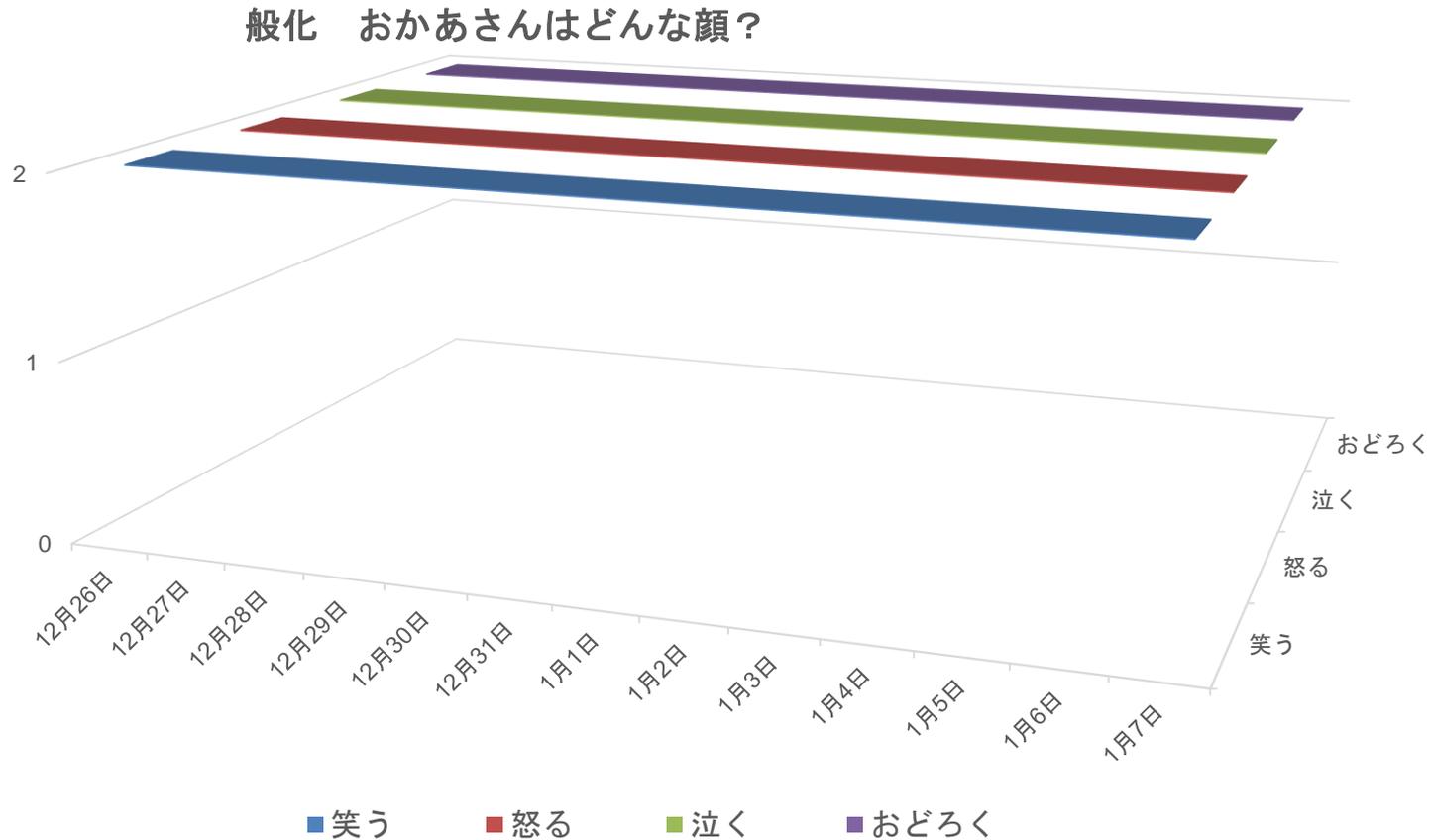


おかあさん どうななお？

ジェスチャー
つきで，質問



般化の結果



おうちの人より

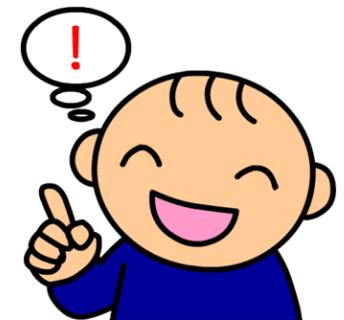
わらった時、「にこっ」という時もあったが、
「わらっている」と言い直すことができた

指導の成果

- 表情をつくることが、指導前はほぼできていなかったが、「にこにこ～」と言葉を足したり、ジェスチャーを大きさに付けたりすることで、できるようになった
- 「～先生が～している」と2語文で答えることが最初は難しかったが、繰り返す中で、より注目して見ることができるようになり、答えることができるようになった
- 授業中に、真剣にテーブル拭きをしている生徒を見て、「～くん、おこっている」と言うなど、以前よりも、生徒の表情を読み取ろうとすることが増えた
- 感情は豊かであるが、レパトリーが少なく、すべて「おこる」ことで表現する傾向があるので、場面と気持ちのマッチングを進めていくことが課題である

成功のポイント Ⅰ

- 対象生徒の実態（注意散漫傾向で注目が逸れやすい）を考慮して、教員の顔に注目させるように言葉かけをした後、目を合わせるようにしたことが効果的であった
- 「おこる」は手を組む，「泣く」は手を目にもっていき，「おどろく」は，両手を開くというようなジェスチャーをつけることで，表情の違いを認識することができ，スムーズな習得につながった
- 1週間に2～3回は課題学習の時にコンスタントに実施し，朝の会や他の授業の場面でも，「今先生はどんな顔？」というように質問をすることで表情の学習場面を多くとることができたのが効果的であった



成功のポイント 2

- 生徒がたいへん興味をもっている写真を教材にしたり，好きな教員の写真を入れたりすることで，学習の意欲をより高めることができた
- 般化場面で，できたらシールを貼ることにしたところ，家庭で毎日シールを自分で貼り続けることができていたので，学校でも今後，シールを使った強化をすることが効果的であると思われる
- 表情の課題ができたら，すかさず褒めて，一緒に手をたたいて喜ぶことで，やる気を引き出すことができた
- 今後，生徒自身の写真を使って，生活場面と結びつけ，4つの表情から今の気持ちを選ぶなどの学習を重ねていきたい

